

まちの居場所がつむぐ物語

soil子どもの居場所ネットワーク 2024年度活動報告



特定非営利活動法人ハートフル・ポート



CONTENT

01	はじめに	3
	soil子どもの居場所ネットワークマップ	4
02	友情、そして成長へ 不登校の子たちが社会への扉を開ける時	5
03	それぞれのペースで一步踏み出す場	6
04	自分ではどうすることもできない、答えの出ないこと	7
05	ミスターおにぎり	8
06	天才の芽が芽吹くとき	9
07	ボードゲームは人と人とをくっつける接着剤	10
08	羽ばたく前の宿木 ～温かく抱っこしてもらえるとこ～	11
09	個性豊かなパートナーたちの活動紹介	12
10	子どもたちの声	19
11	soilネットワーク祭り ～居場所のはしごでまちをお祭り会場～	20
12	さいごに やがて「通過点」になる場所 ～子どもたちの今に寄り添うために～	21

(資料) 活動実績

22



01

はじめに



まちの交差点、子どもたちの無限の可能性が花開く場所

まちには、様々な個性を持つ子どもたちが暮らしています。

キラキラと目を輝かせ、無限の可能性を秘めた子どもたち。その一方で、学校生活に馴染めなかったり、友達との関係に悩んだり、誰にも言えない生きづらさを感じている子どもたちもいます。

育った環境も異なる多様な子どもたちにとって、学校でもなく家でもない、ありのままの自分になれる場所が必要です。そんな子ども達の拠り所をまちの中に増やすことを目指した「まち全体を子どもの居場所化する、住み開き型子どもの居場所事業」2年目、まちのあちこちに小さな芽が出て、そこからたくさんの物語が生まれました。

いろんな出会いがあり、いろんな経験をし、人と触れ合う喜びを知った子どもたち。互いに信頼関係を育み、自己肯定感を確立していった子どもたちが成長していく姿に、心が熱くなりました。

そんなsoil子どもの居場所ネットワークの1年間の活動の物語をここにご紹介します。

Supported by  日本 THE NIPPON
財団 FOUNDATION

運営：特定非営利活動法人ハートフル・ポート

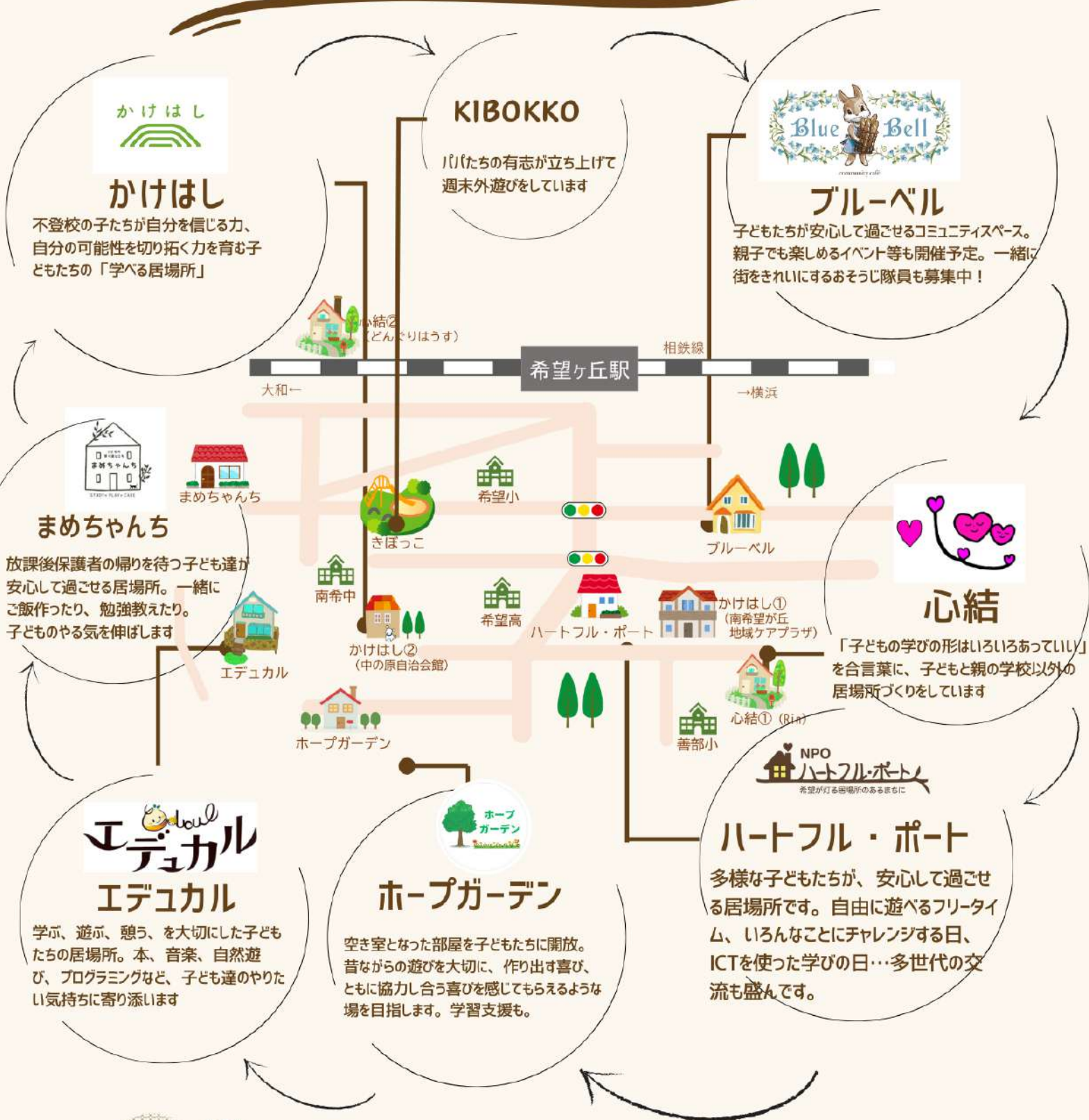
ハートフル・ポートは、2014年にオープンしたまちのカフェ。赤ちゃんからシニアまで、様々な人々が集う交流拠点として、癒しと新たな挑戦の機会を提供しています。多様な人々が交流するカフェ——ここに子どもの居場所を併設していることで、子どもたちは様々な世代の人たちの温かさに触れることができ、人間力を高め、社会性を育むことができます。

学校の先生や親以外の第3の大人と出会える場所をこのまちに増やし、子どもたちが成長できる土壌“soil”作りを進めています。

soil



子どもの居場所ネットワーク



まち全体を子どもの居場所に 4

02

友情、そして成長へ ～不登校の子たちが社会への扉を開ける時～

午後2時。カフェの部屋のランチタイムがひと段落すると、soil子どもの居場所には子どもたちが集まって来る。

「こんにちは！」いつも一番乗りで来るS君。

「今日も一番だね！ 外は暑かったでしょ？ 汗びっしょりだよ！」

そんな会話がカフェのスタッフと交わされる。中学2年生のS君はハートフル・ポートsoil子どもの居場所に来るようになって、1年半。明るく誰とでも仲良くなれるのだが、学校には通っていない。

S君にとって、ここに来る理由のひとつは同級生のY君に会えることだ。二人はここで初めて出会ってから、一気に仲良くなった。二人で楽しそうにゲームをしたり、いろんな話をしたり。フリースペース開催日には毎回必ずここで会うようになった。

そんなY君も小学校の時から家に引きこもっていて、もう何年も学校には行っていない。しかし、S君とここで出会ってからみるみる変わっていった。人見知りのY君は、当初は私たちとはほとんど目を合わせることもなかったが、居場所を開いている日はほぼ毎回来るようになり、今では来たら必ず帽子を脱いで私達ともしっかりと目を合わせて挨拶をし、他の子ども達ともおしゃべりしたり、一緒に遊んだりするようになった。たまに小さい子たちがもめていたら、仲裁に入ることもある。

2人には、時々カフェのお手伝いをしてもらうこともある。庭の木に実った果実を収穫してもらったり、居場所の備品として買ったホワイトボードや椅子を組み立ててもらったり、リーフレットを折ってもらったり。Y君は、他の子達に冷静に的確なアドバイスをしてくれる。

S君は、カフェで毎月開催している無農薬の野菜の販売の日には必ず来てお手伝いをしてくれる。朝から農家さん達が届けてくれる野菜の値付けや陳列、予約の商品の袋詰めなども、自主的に取り組んでくれる。お客さんが来たら、レジを打ってくれたり、お客さんとおしゃべりしたり。珍しい野菜の名前もずいぶん覚えた。常連のお客さん達からは顔も覚えてもらっておしゃべりも弾むようになった。

学校では経験できないことがここでは経験できる。誰かの役に立ち、喜んでもらえるということが彼らにとっては何よりも貴重な社会勉強であり、喜びでもあるようだ。

03

それぞれのペースで一步踏み出す場

この不登校の中学男子たちにとって、昨年3月に中学を卒業したK君の存在がとても大きい。

彼は通信制の高校に進んだ後も、日中時間があると遊びに来る。K君の誘いでこの3人の男子がはじめて約束をして、映画を観に行った。ただ映画を観て帰ってきただけだったが、彼らにとっては一步を踏み出す大冒険だった。

その翌日、S君とY君が「めっちゃ楽しかった！」と興奮して私たちにその一部始終の報告をしてくれた。それまで友達と出かけたことのなかった彼らにとっては、本当に夢のようなことだったようだ。

「Soil@ハートフル・ポートって、どんなところ？」とY君に聞くと、
「友達とつながれるところ」と答えてくれた。

何年も引きこもって、家から出たことのなかったY君。これまで友達といえる友達がいなかったのかもしれない。誰ともつながらずに家にこもっていたY君にとってここは友達と出会える大切な居場所となった。

一方、S君は学校に行けなくなった理由の一つが勉強についていけなくなったから、と本人が教えてくれた。しかし彼には将来の夢があり、その夢を叶えるためにも勉強が必要だと感じるようになってきている。

S君のペースで勉強ができる環境ができないか考えていたところ、数学を教えていいという地域の方が現れた。まずは勉強が面白いと感じてもらうところから始め、少しずつ興味を持ってもらえるようにしようと考えた。英語もスタッフが楽しく学べるよう工夫しながら時間をつくり、S君は毎日のノルマを確実にこなすようになった。

「4月から僕、学校に行くことにします！」

この4月には中学3年生になるS君が先日そう言ってきた。
この居場所に来て、いろんな出会いがあり、いろんなことを考え、そして一步を踏み出す決心をした。小さな一歩かもしれないが、彼にとっては大きな一歩である。

ここに来て、いろんな人たちと出会い、経験をし、ちょっと先輩から学び、先輩も教えることで成長し、そして自分に自信をつけていく彼らにエールを贈りたい。

04

自分ではどうすることもできない、 答えの出ないこと

親の都合とはいえ、子どもは大人に従わざるを得ない場合もある。理不尽に思えることも、子どもは受け入れざるを得ないことがあるのだ。

この春引っ越しをするKちゃんや、居場所にひとりでふらりと来るAちゃんも、そのような存在である。

生きづらさを感じている子どもたちの中には、自分ではどうしようもない状況に直面していることが多い。モヤモヤとした気持ちを抱えながらも、誰かに相談することもできず、一人で悩んでいる子がほとんどだ。

Kちゃんは、soil中高生の居場所「ボドゲッティ」に来るようになり、自分の抱えていることを少しずつ話し始めた。私たちは彼女の話聞くことしかできなかったが、親や先生以外の誰かに話を聞いてもらえたことで、少し気持ちが整理できたとしたら嬉しい。

別のある日、居場所に他の子どもが誰も来ていない時間に、Aちゃんが話しを始めた。自分の置かれている環境についていろいろと話をしたあとで、
「でも、どうすることもできないんですよね…」とぼつりと呟いた。

大人でも、苦しくて前に進めないときがある。答えが見つからない状況に直面しても、前に進まなければならないこともある。だからこそ、子どもがそのような状況に直面したとき、誰かに話を聞いてもらうことが非常に重要だと思う。ただ寄り添って話を聞いてあげるだけで、その子がどれほど救われるか計り知れない。



05

ミスターおにぎり

雪がちらつく日のこと、外で遊べない小学生男子たちが大勢やってきた。

その日はカフェのお客さんも少なかったので、カフェの部屋も子ども達に開放することにした。私たちがキッチンで片づけをしていると、男子たちがカウンター越しにのぞき込んできて、じ〜っと見ている。その視線の先は、炊飯器の中にあるご飯。

「これから僕たちサッカーに行くんです」

「そうなんだ…雪の中大変ね。このまま行くの？」

「はい、このまま行きます」

「だったらお腹空いているよね？」

「はい！」

この流れで、このご飯を空腹の男子たちの胃袋に入れてあげないわけにはいかない。この日は他にも子どもたちがたくさんいたので、男子たちにこっそりとおにぎりを握ってあげた。とてもうれしそうに出来立てのおにぎりを頬張った。

夕方になると、子どもはお腹がすくものだ。かつて子育てをしていたおばちゃんたちにはよくわかる。働く母親が増えている中、お金だけもらってコンビニで空腹を満たすことも多い子どもたち。なんか切ないなと感じてしまう。

それから数日後、近くのコンビニでこの男子たちに会った。

「あ、ミスターおにぎり！」と満面の笑顔で私に言う。

「ちょっと！ミスターじゃないでしょ！ミスと言って！」

おにぎりをお母さん以外の人に握ってもらったことはないのかもしれない。
とても嬉しかったようだ。

また握ってあげよう！いや、今度はみんなで握ろう！

06

天才の芽が芽吹くとき

0君は、いろんなことに興味があり、そしてとても吸収の早い小学4年生。

子どもも大人も一緒に生成AIについて学ぶ連続講座の初日、一番活発に質問をし、発言をしていたのが0君だった。知らない世界に触れ、まるで水を得た魚のようにあらゆることを吸収していった。

大人と違い、鋭い感性を持ち、わからないところは遠慮なく質問してくる。純粋に興味があることには、とことん食い込んでくる。その湧き出るような探求心を伸ばしてあげること、そして彼の心にまかれた小さな「興味の種」が育つ土壌を整えることこそ、大人の役目だろう。

学びの場は、決して学校や塾だけに限らない。自由な発想で子どもたちの好奇心を伸ばしてあげられる環境は、むしろ学校以外のほうが作りやすいのかもしれない。学校では教えてくれないこと、本当にやりたいことを見つけるには、地域に眠る人材が"先生"となり得る。子どもたちにとって、知らないことを知るのは、心躍る体験だ。

何に興味を持ち、どんな経験ができるか。その子にあった学びの場があるかどうか。天才の芽はそんな土壌の中から芽吹いていくのだろう。

この小さな種がどう育っていくのか——とても楽しみだ。



07

ボードゲームは人と人とをくっつける接着剤

幼稚園児から85歳まで。あちこちのテーブルから笑い声が聴こえ、歓声上がる。

誰でも参加できるボードゲーム会。この日も30名以上の人達が集まった。知らない人同士もゲームを囲むと知らず知らず声を掛け合い、親しくなる。

真剣に勝負したり、心理戦で相手の心を読んだり、みんなで協力したり…。勝っても負けても、子どもも大人もおじいちゃんもおばあちゃんも、みんな楽しい時間を過ごす。そんなボードゲームには、不思議な魔法があるようだ。

お昼ごはんは、みんなでおいぎりを握って、ボランティアスタッフが作ってくれたお味噌汁をみんなで食べる。ごちそうさまをした後も、またボードゲームの続きで盛り上がる。

ボードゲームマジック——コミュニケーションが苦手な子も、リーダーシップを発揮する子も、おばあちゃんたちにやさしくルールを教えてくれる子も、みんなそれぞれが役割があって、楽しめる。

ボードゲームは、年齢も、性別も、置かれている境遇も垣根を越えて、人と人とをくっつける接着剤。この日はスマホを置いて、リアルにゲームを楽しんだ。

ボードゲーム最高！



08

羽ばたく前の宿木 ～温かく抱っこしてもらえるところ～

(まめちゃんちレポートより)

この5年間、近所の子どもたちを我が子のように接してきた。まめちゃんちは、子どもたちが一息つき、再び羽ばたくための"宿木"だったのかもしれない。

必要なときにそっと見守り、母親のようなまなざしで寄り添い、抱っこやおんぶ、肩車などのふれあいや、おしゃべりの時間を私なりに届けてこられたと思っている。制限の多い学校とは異なり、一緒に遊び、ご飯食べ、勉強したりする中で、子どもたちが"ありのまま"でいられる時間を共有できたのではないか。自分の意見を伝えること、人には得意なこと・苦手なことがあると知ること——そんな自然な学びの環境がここにはあったように感じる。

振り返ると、私は子どもたちと「友達」として接してきたような気がする。きっと、子どもたちにとっても私は「少し年上の友達」だったのかもしれない。彼らはこの場所で必要なものを受け取り、新しい世界に飛び込んでいったり、馴染めなかった世界に戻っていったりした。

自分でも気づかないうちに、子どもたちは大切なものや人、環境を見つけ、自分自身の力で進道を選び始めている。ここで過ごした時間が、自分の道を切り開くための"準備のとき"になっていたのだろう。例えば、習い事が嫌だった子が通えるようになったり、最初は「触るな!」と心を閉ざしていた子が抱っこを求めるようになり、やがて友達の輪に入っていけるようになったり。

この場所は"通過点"。

でも、羽ばたく前の子どもたちが苗を休める宿木だと思う。またいつか帰ってくることもあるかもしれないが、「あのとき、あの場所があったから、次に進めた」と思い出してもらえると嬉しい。

子どもたちとの時間は私にとって大きなエネルギーの源だった。
心を開いてくれた子どもたちに、心から「ありがとう」を伝えたい。



09

個性豊かなパートナーたちの活動紹介

ネットワークというつながりがあるからこそ生まれる人と人との温かい関わり、安心感、そして地域に広がるやさしい循環の輪。このまちには、子どもたちが持つ無限の可能性の芽を育む豊かな土壌が確実に根付いています。目の前の子どもたち一人ひとりに寄り添い、不安を抱える親御さんの心をも癒やす居場所が点在するまち——そんな土壌づくりを共にしているsoilネットワークのパートナーたちの活動レポートから、その一部をご紹介します。

01 エデュカル

学ぶ・遊ぶ・憩うを大切に

人としての土台を作る幼年期からの成長を温かく見守ってくれるところ

・インスタから入り、LINEのお友達になったHさん。ブルーベルのファンでsoilのゴミ拾いもしている方。この日は、ハートフルポートでランチしてから来ましたとのこと。居場所をはしごするsoilレポーターみたいな位置にいる方の初エデュカルはうれしかった。

・初めて来られた3組の親子。ハートフルポートでエデュカルを知ったとのこと。繋がりがありがたい。もう1組はどんぐりひろば元生徒。身体発達があつたものの、補助装具で2キロ弱を歩いてこられたのが感激。

・不登校およびそのことで精神的に参っているお母さんが、とても安心できると連発。スタッフTさんの温かな雰囲気もあって、お母さんが驚くほど、子どもの緊張がほぐれてたくさんおしゃべりしてくれた。お子さんが不登校1年生。入学後5月に母恋しくて泣いたところ担任から叱られ、怖くて不登校に。初めにかけはしさんに連絡したが、定員いっぱいだったとのことsoilパートナーを知って連絡もらった。エデュカルに来るまでの間に、心結さんも尋ねてみたとのこと。

・自由に過ごす。が、具体的な提案がある方がとつきやすいようだ。新規2組あり。いつも気になりながら参加できなかったという小学生親子が来てくれた。

・キッズプログラミングに来てくれた子。学校でもプログラミング教室のチラシをもらってることがあるらしく、親子の関心もあることがわかった。ただし、高額でなかなか参加できないが、ここはとても良心的と言われた。

・初めての方たちが5組も来た。春休みでいろんな年代が来られる日であったことと、先日のsoilネットワーク祭りや幟の効果があったかと。近所のご婦人3名が小さな子の見守りにも目を向けてくれたので、若いお母さんもののびのびおしゃべりできていた。



09

個性豊かなパートナーたちの活動紹介

02 かけはし とことん寄り添う

(今年度から団体の登録方法が変わり、新規の募集となった)

不登校の子達が安心して過ごせる居場所 ～地域のボランティアの方たちに支えられて～

- ・春休み中ずっと家にいたと話していた子が、居場所に来て過ごすことができた。
- ・居場所、隣接した公園、自治会館の小さな部屋等、それぞれしたいことや過ごしたい場所を選んで、各々安心して過ごせていた。
- ・個別に対応・配慮が必要な児童がいたが、その日はたまたま地区センター3部屋分を利用することができ、それぞれに必要な対応ができた。
- ・いつも顔馴染みのボランティアさんが来てくれて、子どもたちが安心して過ごせた。



03 ホープガーデン 家庭的な温もりの感じられるおうち

工作など子どもたちが喜ぶ企画もたくさん。自宅を開いて子どもの居場所に

- ・ピアノに「ドレミ」のシールを貼ったら、あまり弾けない子も夢中になって弾けた。
- ・パステル画に興味を持った子が、初めてカッターを使ってパステルを削り、粉を指で混ぜながら気持ちのこもった大人顔負けの絵を仕上げた。「好き」を伸ばすと才能になる！ことを実感。
- ・ボランティアの友人が16面の手作りカードを持参してくれて、それを試しに作って遊んでみた。折り方を変えながら同じ絵柄を4面揃える遊びで全部で8通りできる。作るのは面白く、揃えるのはなかなかやりごたえがあり、小学生から大人まで遊べる逸品。
- ・ママ達が自分の思いや子育ての話を、私やボランティアの方にだんだんいろいろお話ししてくれるようになってきていて、それが嬉しいし、お互いに楽しいひと時になってきている。



09

個性豊かなパートナーたちの活動紹介

04 まめちゃんち

子どもたちの寄り道どころ

一緒にご飯食べたり、勉強したり。第2のおうちのようなホッとするおばちゃんち

- ・ご飯を一緒に食べる家族がいないらしいので一緒にワイワイ食べていろんな話をした。
- ・（学習支援）長文が少しずつスラスラ英訳できるようになってきた。
- ・（学習支援）因数分解の先取りができた。
- ・自分たちで相談して予算の範囲で買い物したりできた。家庭環境に難のある子にも楽しい夕ご飯の時間になったと思う。
- ・おうちであまり料理をしたことがない子も参加。やってみたらできたので自己肯定感に繋がったと思う。家庭環境が難しい子にとっても良い時間となっていると思う。
- ・たわいのないおしゃべりをいろいろ語ってくれた。
- ・（学習支援）問題点が明確になってきたのでそこを重点的に行うようにした。
- ・（受験対策）無事希望の高校に受かったとのこと！よかった。
- ・ハートフル・ポートからボードゲームを貸してもらって盛り上がった。
- ・みんなでバーベキューをした。子どもたちの自由な発想と行動力はすごい！



05 ボドゲッティ

中高生のホッとスペース

ボードゲームを使った中高生の居場所

- ・お菓子やジュースがあると来る理由になる。塾に行く前の時間に来てくれた。
- ・「はあって言うゲーム」は、子どもと大人ですると盛り上がって、楽しい。
- ・校内フリースペースに通っている生徒中心に集まっている。
- ・中高生は部活があるので、大会前などは来られない子たちが増える。
- ・子どもたち自ら、ボードゲームを率先してリードしていた。



不登校のお子さん・保護者の人たちが繋がり、癒される場 子どもが活躍できる場

・以前畑の会に参加してくれた方が、お子さんたちを連れて来てくれた。いつもは静かなフリータイムだが、今日は子どもたちの元気な声でいっぱいの賑やかな会となった。今日のフリータイムを心待ちにしてくれていたようで、少しでも息抜きの時間が作れたようでよかった。

・久しぶりのエデュカルでの開催。以前エデュカルで参加してくれた方がWSを楽しみに待っていた。幼稚園生から大人までたくさんの方が参加してくれた。

・（畑訪問）農業研修に来ている方からお話を聞いたり、作業しながら虫を見つけ観察したり、里芋の葉っぱが水を弾くことを発見した子もいた。中学生が多かったので、農家を目指す研修生から、農家になろうと思った理由など話を聞くことができたのは良かった。

・以前も参加くださったお父さんが参加。新学年になってからのお子さんの変化や様子を聞くことができた。soilの新しい冊子を数枚お渡ししたら、お子さんが通う小学校の児童専任支援の先生に渡してくださった。

・大人数が苦手な子に向けての初の試み。ゆっくり落ち着いてレジンの作品作りができ満足していただけてよかった。

・今回は、15名中11名の方が初参加の方。口コミで少しずつ広がっていて嬉しい。プリンとゼリー作りをみんな楽しんでくれた。低学年のお子さんもお母さんと同室で遊びながらお話しできた。

・初めての方。かけはしでsoilの事を知り、心結にご連絡いただく。soilから心結に来てくださった方が初めてだったので良かった。

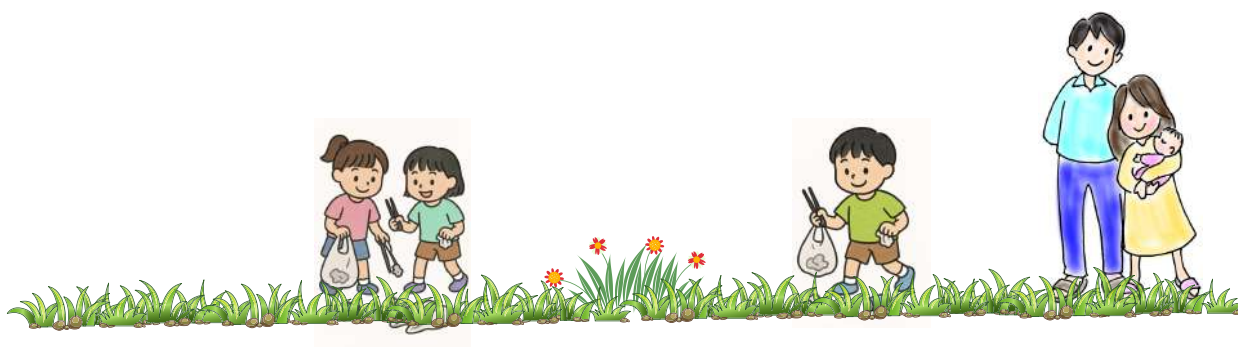
・小籠包づくり。子どもたちの提案からの企画だったので、実現できて良かった。企画した子も楽しそうだった。

・今回は、新規の方、リピートの方半々の参加だった。おうちに引きこもっているお子さんをもつ方も参加してくれて、いろいろな悩みをお話してくれた。いつかその子も連れてきたいとのこと。で次回も予約してくれた。子どもたちがレジン作りを楽しむだけでなく、大人同士もいろいろなお話ができる機会となりよかった。



まちのごみ拾い活動から育む子どもたちの生きる力

- ・ごみ拾いをする中で、虫を見つけたり、ご近所の方々と話をしたり、道を気をつけて歩くこと、公共の場所をキレイにすることの気持ちよさ…等々、学ぶことがたくさんと、親御さんから煮も喜ばれている。
- ・帰り際に参加された方々が「すっごく楽しかった!」「小さい子も体験できて嬉しい」「子ども連れで来られるなんて最高」と大満足されていた。
- ・実際にごみ拾いをやっているのを見て、参加してくれた子どもがいた。実際の活動を見てもらって、それが少しずつでも広がっていくのは喜ばしいこと。
- ・ゴミ拾い活動を通じて異年齢の子どもたちが仲良くなり、フリータイムフリースペースでは一緒に楽しく遊ぶようになっている。
- ・先月より続けて来てくれる中学生がいる。今後も継続してくれると嬉しい。
- ・中学生がリピートで来てくれた。今後も続けたいとのこと。中学生がこうした地域の活動に目を向けてくれるのは嬉しい。普段は中学生の参加は少ないのでリピートで来てくれるといいな。



08 ハートフル・ポート やりたいことが叶う場所

(その1)

赤ちゃんから高齢者まで多様な人たちが集まるまちの中の交流拠点

・iPadの使用に関して時間制限を提案(ゲームを30分したら、30分は休憩)。子どもたちが同意し、休憩時間には絵を描いたり、マンガを読んだり、それぞれが別の事をするようになった。小学生たちがボランティアさんと一緒にラベル作りをしたり、本棚・収納の整理整頓のお手伝いをしてくれたり、男子高校生がホワイトボードの組み立てを手伝ってくれたり。フリースペースとしての2年目、安心して楽しく過ごせる居場所づくりに子どもたち自身も積極的に関わってきてくれている。

・プロセカをやりに来た子も、30分使用30分休憩ルールを守ってくれた。ボードゲームで小さなグループが大きなグループになって盛り上がった。勝ち負けのあるゲームは、悔しさも感じる子がいて、泣くこともあったが、そういった悔しさも大事なこと。

・幼児と小学生が初めて一緒に遊ぶ。最初はぎこちなかったのが、シルバニアで楽しく遊び始めた。

・新年度初の作って食べよう。進学、進級して、新たな環境で学校に行けた子、行けない子、不安な子、行かない選択をする子、様々だが、この場をととても楽しんでいた。初参加の子は、とても楽しかったので、次回もぜひ参加したい！とのこと。ご飯の後の卓球は真剣勝負！新学期早々、揺れる子供達。参加すると言っていたが、来られなくなった子も。いつも来ている子たちが来ないのはどうしているのか心配だが、この場が必ず開いていることの意味を考えて大切にしていきたい。



・iPadの休憩中、普段親に対して抱えていることを話してくれた。過保護で困る、とか、兄弟への不満、もっとこうしてほしいなど。子どもにもはけ口必要。

・(カフェで開催している) 認知症カフェで中学生がドラムが得意な子が昭和歌謡の曲に合わせてリズムをとったり、子どもたちも一緒に歌ったり、認知症カフェ参加者さんに喜んでもらえた。



・今日の作って食べよう！は、外に飛び出して、心結さんとのコラボで畑へ！新しい出会いもあり、みんな楽しんでくれた。

・カフェ利用の方のお子さんが、遊びにきてくれた。普段学校は苦手のようなけど、ここで仲良くなった子と一緒にボードゲームを楽しんでいた。



08 ハートフル・ポート やりたいことが叶う場所

(その2)

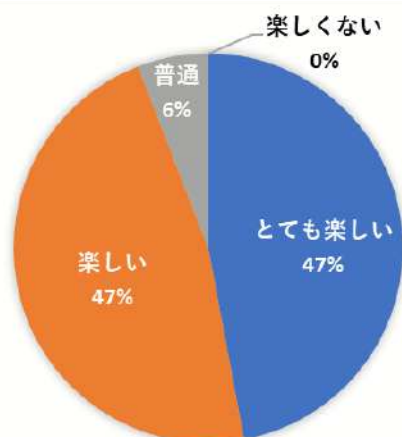
居場所を自分たちで創っていく 多様な経験と学びができる場

- ・小学生の女の子たちがお皿を下げたり、箸袋を作ったり、カフェのお手伝いしてくれた。
- ・小6女子が小5女子に、体験学習はどうだったか聞いたり、自分達の時の話をして会話が楽しそうだった。雨で人数は少なかったが、親しい友達同士で、のんびり遊べていた。男子たちは、じっくり取り組めるカタンをやって盛り上がった。いつも来てくれる5年生の子がお母さんと妹と来てくれた。ランチに来ていた親子も遊んで帰った。
- ・小学生は先ず宿題を済ませてから、ゲームをしていた。えらい！タブレット時間もルールを決めていることで、他の遊びも楽しめている。大人がいると、学校や家のことなど会話が広がり、子ども達の心の内を知ることができる。
- ・認知症カフェで誕生日の歌を歌うとき、小学生の子もみんなにお祝いしてもらった。初め恥ずかしそうにしていたその子が、帰る時に「みんなに歌ってくれてありがとうって伝えといてー！」と言ってくれた。嬉しい気持ちをちゃんと伝えられたね。
- ・兄弟喧嘩等で家庭が居づらいと言っていた子が来た。フリースペースがほっとできる場になっているようだ。
- ・(夏休み) 初めて会った子同士、勉強を教え合っ、午後もゲームをしたり仲良くしていた。おにぎり、味噌汁づくりもこどもたちは積極的に楽しんでいた。お昼ごはんをみんなで一緒に食べて、美味しさも倍増。みんなで食べる機会もないので、とても喜んでいた。
- ・午後からはたくさん小学生が遊びにきていた。夏休み、ここに来れば友達に会える、という期待もあった様子。ここが、こどもの居場所になっているなと感じた。ご飯作りも2度目で慣れてきている子もいた。
- ・不登校の中学生が高校生に進路相談をしていた。自ら自分の進路について考えるきっかけに。この居場所での出会いが子どもたちに少しずつ変化をもたらしている。
- ・「畑へ行こう」の企画。新鮮な野菜が収穫できて、不登校の中学生の体験学習の場になっている。
- ・急須でお茶を飲む習慣がない小学生たちが多いことを知り、急須でお茶を入れる体験を試みた。「やってみたい!」「ひとつ勉強になった～」と話す子たち。経験こそ子どもたちにとっては大切なこと。面白いことはどんどんやろうとする子どもたち生きる力はある、その力を発揮できるような環境を作るのが、大人の仕事かなと感じた。
- ・自然素材で作るリップグロスの企画は、人気で予約がすぐ埋まってしまう。作る楽しみや使う責任も分かる講座。女子はメイクが大好き♡



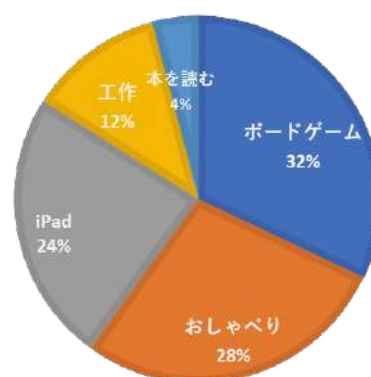
soil子どもの居場所に来る子どもたちのアンケートから

1. フリースペースは、楽しいところですか？



「とても楽しい」「楽しい」と回答した子は94%

2. フリースペースで楽しいことは何ですか？



ボードゲーム、おしゃべりが全体の60%

3. 自由記述から見える声

以下は子どもたちからの自由記述の一部です。

- ・友達と話せることだけで楽しい
- ・ボードゲームが楽しい
- ・オセロをして友だちにかちました。
- ・いろんな遊びを教えてくださいありがとうございます。これからも友達と来ると思うので、その時もよろしくお願いします
- ・楽しいゲームのしょうかいややり方を教えてくださいありがとうございます
- ・たのしいです
- ・いつもありがとうございます！楽しいです！！
- ・初心者向けのピアノ教室などの楽器の教室、お米育てたい
- ・いつもこのような素敵な場所を用意してくださり、ありがとうございます！
- ・本当に楽しいです！



アンケートに答えた子の学年





同日3か所で開催！ 各団体の特色を活かした子どものお祭り
居場所のはしごでまち全体をお祭り会場に

2025年2月15日（土） 10:00 - 15:00

3か所同日開催

(1) @南希望が丘地域ケアプラザ 10:00～12:00

【soilパートナー】：かけはし、ブルーベル、心結、

(2) @ハートフル・ポート 12:00～15:00

【soilパートナー】：ハートフル・ポート

(3) @エデュカル 10:00～15:00

【soilパートナー】：エデュカル、ホープガーデン、まめちゃんち

★入場無料。出入り自由。

★soilパートナーそれぞれが独自のブースで出し物を出す

★遊びをしたらスタンプカードにスタンプを押してもらう。

スタンプカードは、まちの駄菓子屋さんで駄菓子と交換できる。



2024年度のsoilネットワーク祭りは、同日3会場でお祭りを開催。拠点をつなぎ、子どもたちはまちの中を移動しながらまちの人達と接し、多様な体験ができた。各団体の特色が活かされ、福祉作業所の人達や地域の先生たちにも協力していただき、日頃つながることのできないような人たちとも出会い、新しい発見もたくさんあった。

まちの2件の駄菓子屋さんさんに協力していただき、参加者に駄菓子券を発行した。93歳のおばあちゃんがひとりで切り盛りしているお店には私たちもお手伝いにも行き、子どもたちの大切な居場所として守っていくつながりもできた。



反省点としては、昼食の提供方法や参加者の年齢層の偏り、準備体制など、改善すべき点も明らかになった。来年度に向けては、今回の反省点を活かしつつ、複数会場のあり方や地域連携の強化、子どもたちの主体性を引き出す企画などを検討することで、さらに魅力的な祭りとなるよう検討していきたい。

やがて「通過点」になる場所 ～子どもたちの今に寄り添うために～

子どもたちは日々、確実に成長しています。

さまざまなことに興味を持つ子、生きづらさを抱えている子——この居場所は、そんな子どもたちにとって、学校や家庭では得られない出会いや経験ができる場所です。先生や親とは異なる大人との関わり、異年齢の子どもたちとの交流など、多様な関係の中で自分らしく過ごせる時間があります

ここに来たことで、一步を踏み出せた子。自信を持てるようになった子。悩みを誰かに打ち明けられた子。それぞれの子どもたちにとって、この場所はきっと必要な"過点"だったはずです。

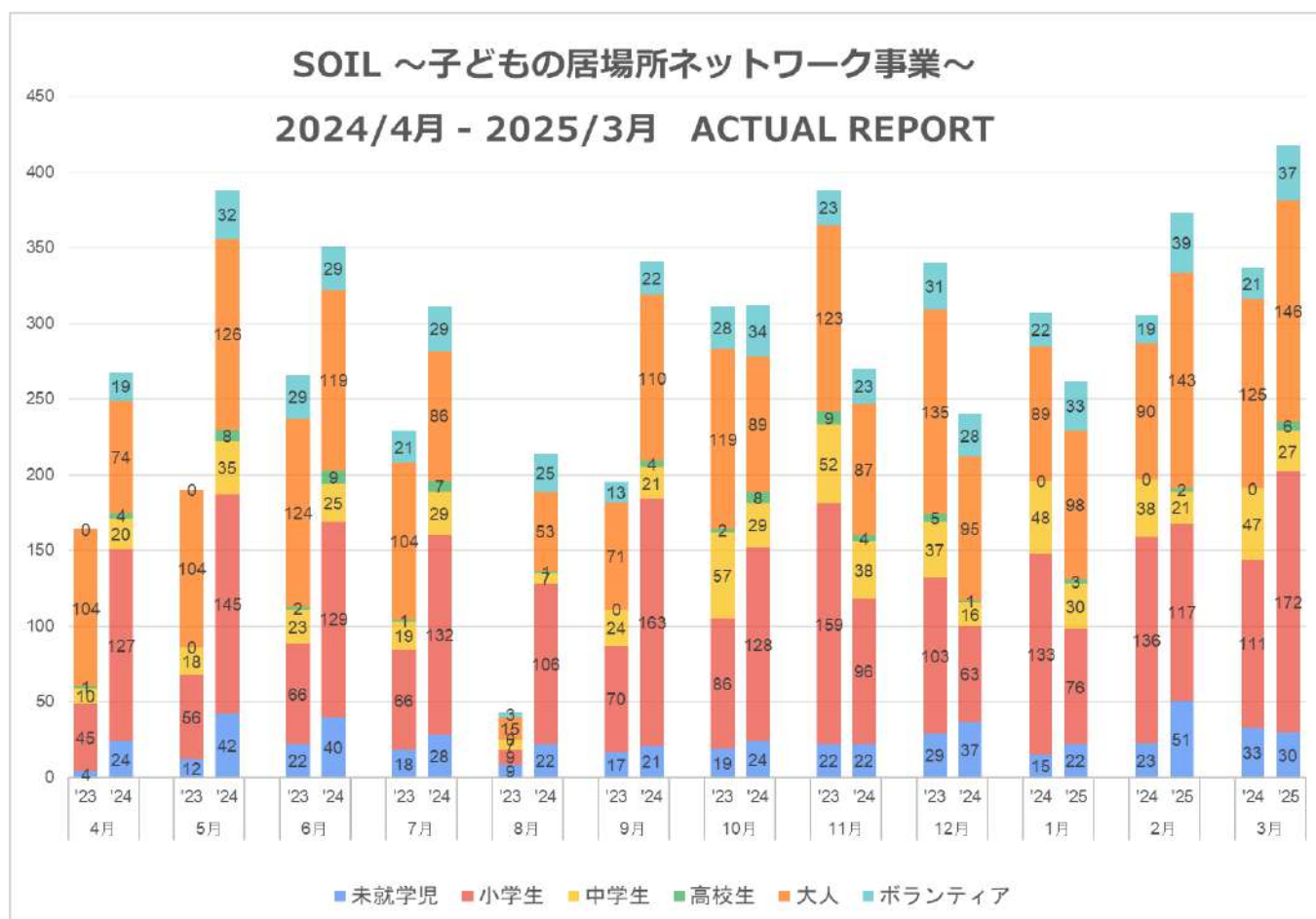
そして、ここで何かを感じ、考え、自分の進むべき道を見つけたとき、その子にとってこの場所は"必要のない場所"になるのかもしれませんが、それは、私たちがこの居場所に込めてきた願いでもあります。

その時にこの場所を拠り所として必要としていた子どもたちが、自分の世界を見つけ、やがて巣立っていく。その日まで、私たちは子どもたちがひと休みできる場所として、心を整える場所として、そして「生きていてよかった」と感じられるような場所でありたいと願っています。

「もう大丈夫」。そう子ども自身が思えたとき、この居場所は静かに、その役割を終えるのです。



参加者した子どもの数、関わった大人の数（2023年度/2024年度）



soil子どもの居場所ネットワーク 2024年度活動報告

2024年3月発行



特定非営利活動法人ハートフル・ポート

横浜市旭区南希望が丘58

045-777-8159

cafe@heartful-port.jp

